

平成30年8月2日
 東部農林振興センター 松江農業普及部

標 題 今年もWCS用稲の収穫が始まりました。

(ダイジェスト)

7月31日から「湖北 WCS 生産組合」の圃場において、WCS 用稲の収穫作業が始まりました。昨年同様汎用収穫機2台体制で、極早生品種「夢あおば」の収穫作業が行われています。本年「湖北 WCS 生産組合」では、約64haを作付、約4,800ロールの生産を見込んでいます。生産されたロールは、松江市内の畜産農家はもとより、奥出雲町、飯南町、雲南市、大田市などの畜産農家に販売される予定です。

7月31日から、「湖北 WCS 生産組合」(以下組合)の圃場において、WCS 用稲(夢あおば)の収穫が(有)ライスフィールドによって始まりました。当普及部では、収穫前に、落水を指導、収穫直前にWCS 用稲をサンプリングし、畜産技術センターにおいて水分測定を行っています。今回も、サンプルの水分が適正(70%以下)であることを確認し、(有)ライスフィールドに収穫作業についてGOサインを出しています。



汎用型収穫機による収穫作業

この組合で生産された、稲WCSのほとんどは管外市町畜産農家へ販売していますが、定期的に普及部と、組合事務局で管外利用農家を訪問し、利用した感想や要望を伺っています。今年も7月25日に昨年度産から利用している奥出雲町と雲南市の酪農家を事務局と訪問しました。そのうち奥出雲町の酪農家では、毎年夏になると乳脂率が低下していたが、今年はその兆候が見られないとの高評価で、継続して購入したい、雲南市の酪農家も継続して使いたいとのことでした。



嗜好性抜群の稲WCS

極早生「夢あおば」の収穫は4日間程度で終了しますが、8月下旬からは中生の「たちあやか」「ホシアオバ」の収穫が、10月から晩生の「たちすずか」収穫が順次予定され、今年度組合では、約64ha、4,800ロールの稲WCSの生産を計画しています。

普及部としては収穫前の水分測定や、組合事務局と販売農家の意見要望を伺いながら「耕畜連携」を推進していくこととしています。